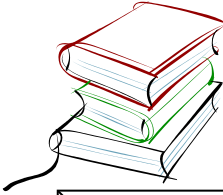


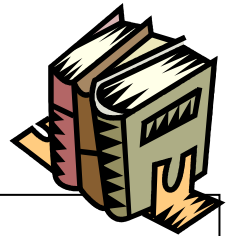
学びのもと <説明文>

「読みの観点」を使って読もう！



小学校の国語の学びでは、様々な作品を読んできましたね。

国語の学習では、この本に書かれた「読みの観点」を使って読みを深めてきました。説明文の学習は、筆者が「伝えたい考え」と「伝えたい事実」を読み取ることが学習のねらいです。要旨を自力で読み取るために、この手引きを活用してみましょう。

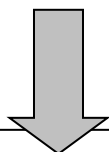


名
前

私たちが身に付けた「読みの観点」

10の「読みの観点」

一	段落								
二	文と図・写真								
三	「はじめ」「中」「おわり」								
四	「はじめ」の話題提示・問い・意見								
五	「中」の説明・事実と意見								
六	「問い」の「答え」								
七	原因と結果								
八	要点・要約								
九	結論								
十	「おわり」の説明								
十一	話題のふり返り								
十二	筆者の意見								
十三	文の型「頭括」「双括」「尾括」								
十四	題名								
十五	要旨								



10の観点を使って読み進め、説明されている
事実や、筆者が伝えたい考えを読み取って、**要旨**
をつかもう。

「読みの観点」を使って読みとろう！

一 段落

★ 筆者は文章の中身のまとまりごとに段落を分けて説明を進めます。

手がかり

- 一字下がついているところはどこかな。
- いくつあるかな。

二 文と図・写真

★ ★ 筆者は分かりやすく説明するために、資料を使います。
図・絵・写真・グラフ・表などがそれです。

手がかり

- 資料はどの文（文章）と関係があるかな。
- 資料からどんなことが読み取れるかな。

「読みの観点」を使って読みとろう！

三 「はじめ」「なか」「おわり」

★ 文章は「はじめ」「なか」「おわり」の三つのまとまりで話を進めることが多いです。

○ 「はじめ」↳ 話題提示「これからこんな話をするよ」

↳ 問いかけ「どうでしょうか。」

↳ 筆者の意見

○ 「なか」↳ 説明（事実・例）の結論

↳ 「なか」のまとめ

○ 「おわり」↳ 文章のまとめ

↳ 結論から分かる筆者の意見

四 「はじめ」の話題提示

★ この文章で説明されることは何だろう。

手がかり



○ 段落の中で繰り返し出てくる言葉に注目してみよう。

○ 話題にかからわせて筆者が意見を言っていることもあ
るよ。

「読みの観点」を使って読みとろう!

五 「なか」の説明

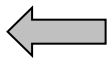
★ 「はじめ」で示された話題について実験やデータなど、事実に基づいて説明されます。

- 「事実」と「意見」を区別して読んでみよう。
- 「問い」の「答え」を探してみよう。どこにあるかな。
- 「原因」と「結果」や事柄の順序に気を付けよう。
- 「要点」繰り返し使われているキーワード。
- 「要約」要点をつなぐと、段落を短くまとめる「要約」が書けるよ。

六 結論

★ 説明文で筆者が言いたい事柄をズバリまとめているところが「結論」です。

手
が
か
り



- 「このように」などつなぎ言葉に注目しよう。
- 結論の場所によって、「頭括」「尾括」「双括（両括）」に分けられるよ。

「読みの観点」を使って読みとろう！

七 「おわり」の説明

★ 「おわり」ではこれまでの説明をふりかえってまとめたり、それに対して筆者が意見を述べたりします。



○ この筆者が述べる意見が「要旨」につながります。

八 文の型

★ 結論が書かれてある場所によって、文章は三つの型に分類できます。

- 一 頭括 文章のはじめにズバリと結論がある。
- 二 尾括 文章の最後に結論がある。
- 三 双括 文章の初めと最後の両方に結論がある。
(両括)

「読みの観点」を使って読みとろう！

九 題名

★ 題名には筆者の思いがこめられています。説明する事柄とどのような関係があるでしょうか。

○ 題名と筆者の説明とはどのような関係があるでしょうか。「題名」に「筆者の意見」をつないで文で表してみましよう。

十 要旨

★ 筆者が文章で取り上げている内容の中心となる事ながら、あるいは、それについての筆者の考えの中心となる事からを要旨といいます。

★ 筆者の考えは、文章の始まりやまとめに直接的に書いてあることが多いよ。

つまりこの要旨を伝えたくて、筆者は文章を書いたんだね！

説明のよさを考えよう

筆者が「説明したいこと」・「伝えたい考え」を読み取ったあなたは、筆者の説明のよさを考えてみましょう。

文の型から「双括」だと結論を繰り返すから分かりやすいね…など
説明の順序から「例がどんどん抽象に向かっていくから、何にでも

通用する説明だと分かるね…など

資料から「グラフがあると、どのように変化しているか、言葉で足り

ないこともおぎなえるね…など

言葉から「もちろん例外もある」のような書き方だと、違いを認め

た上で説明していることが分かるね…など

その上で、あなたはこの文章をどう評価しますか。
「くは納得するがくは納得できない。」「くには賛成だがくには反対だ」などと考えることが大事です。

読み取ったことを「作品評」などに書き表したりすると、
読みの力が深まります。

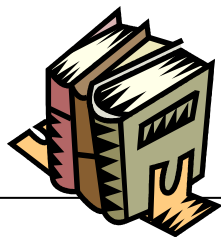
学びのもと <物語文>

「読みの観点」を使って読もう！



小学校の国語の学びでは、様々な作品を読んできましたね。

国語の学習では、この本に書かれた「読みの観点」を使って読みを深めてきました。物語文の学習は「作品の主題」・「作者が作品に込めた思い」を読み取ることが学習のねらいです。作品主題を自力で読み取るために、この手引きを活用してみましょう。



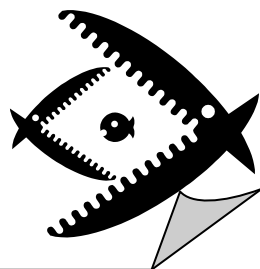
名
前

私たちが身に付けた「読みの観点」

10の「読みの観点」

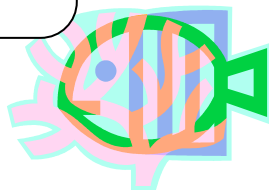
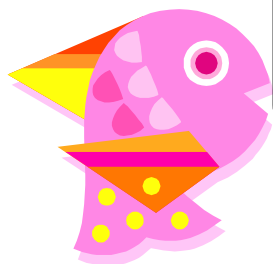
十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

題名	クライマックス	対比	事件（出来事）	対人物	中心人物	登場人物	時	場所	場面
----	---------	----	---------	-----	------	------	---	----	----



↓

10の観点を使って読み進め、中心人物の成長や、作品の主題をつかみとろう。



「読みの観点」を使って読みとろう！

一 場面



このお話はいくつの場面からできているのだろう。

手がかり

- 「紙しばい」にすると何枚の紙が必要になるかな？
- 行が空いているところを手がかりにすると、いくつに分かれているかな？

二 場所



このお話はどこがぶたいになっているのだろう。

手がかり

- 国や地方はどこだろう。
- 風景を描くとすると、「山」？「川」？「海」？「村」？「街」？ どれになるだろう。

「読みの観点」を使って読みとろう！

三 時

★ このお話はいつのお話だろう。何年間（何日・何時間）のお話だろう。

手がかり

○ 文のはじめに書かれてあることが多いです。場面を追って、時間を抜き出すと時が読み取れます。

四 登場人物

★ このお話に出てくる人物は誰だろう。

手がかり

○ お話の中で行動したり会話したりしている人です。人でなくても生き物や物が登場人物となることもあります。

○ 名前が出てくるだけでは登場人物ではありません。

「読みの観点」を使って読みとろう！

五 中心人物

★ 登場人物の中で、最も心が大きく変化した人物はだれだろう。

手がかり

- 物語が中心人物を中心に展開していくよ。
- 事件を通して中心人物の成長が描かれるよ。

六 対人物

★ このお話の中で、中心人物の成長に影響を与える人物は誰だろう。

手がかり

- 中心人物に大切な話をしたり、心に残る行動をとったりする人は誰だろう。

「読みの観点」を使って読みとろう！

七 事件（出来事）

★ このお話では「どのような事件（出来事）が」「いくつ」起こっているだろう。

手がかり

○ いくつの出来事が起こっているかな。その出来事のたびに登場人物はどのような成長をしているかな。

八 対比

★ 対比している表現を探してみましよう。

手がかり

○ 「大きい」と「小さい」のように意味の違う言葉が使われることがあります。それによって場面の変化や、より表したいものがはっきりと浮かび上がることがあります。

「読みの観点」を使って読みとろう！

九 クライマックス

★ 中心人物の心が最も大きく変わったところはどこかな。その部分をぬき出すことができるかな。

手がかり

○ どのような出来事がきっかけで、心がどのように変わったのだろう。作品の山場でもあります。

十 題名

★ このお話の題名はどのタイプになるかな。

手がかり

① 「中心人物」や「対人物」の名前から（例／スイミー・ごんぎつね）

② 「中心的な出来事」から（例／ちいちゃんのかげおくり）

③ 作品世界の「象徴」（例／カレーライス・一つの花・白いぼうし）

④ 時・場面設定を表す言葉から（例／三年とうげ・あらしのよるに）

★ 題名が意味するものを考えることで、作者の思いを読み取ることができます。

作品の主題を考えよう

作者がこのお話を通して、私たちに伝えたかったことは何でしょう。

伝えたいことがあるから、作者は作品を書きます。その思いを考えましょう。

- 事件（出来事）から考える
- 中心人物の成長から考える
- クライマックスの変化から考える
- 題名が象徴するものから考える

など、これまでの読みの観点を通して整理していくと、考えの手がかりとなるでしょう。

読み取ったことを「作品評」などに書き表したりすると、読みの力が深まります。